

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第161号



ツーリスト通りには客待ちのトゥクトゥクが並びます。ボッタクリには要注意!

ラーメンを通じて世界を知る

グアテマラ在住 飲食店経営

辻 秀樹

コロナの影響で日本人宿をたたみ、以前の生活に戻った外国人相手に商売をしてみようとラーメン屋を始めてみることにしました。世界はインフレが進み、村の物価も3割ほど上昇しました。貧富の差が大きくなっています。僕はそれをチャンスだと思いました。そしてラーメンの価格を思い切って10ドルに設定したのです。村の日に相当する額です。村の中のレストランではおそらく1番高額、旅行者が行くレストランのランチの約倍の値段設定です。最初周りは驚いていました。僕は来店客を絞るためにフィルターをかけたのです。僕のラーメンの対象客は富裕層、村人でも主要な観光客であるバックパッカーでもありません。対象は欧米の比較的裕福な層の人達です。

ラーメンは海外でとても人気があります。グアテマラで日本人が作ったラーメンが食べられる、それが大きなアドバンテージになると考えたのです。

(次頁へ)

メインストリートから離れた場所、メニューは英語、ソーシャルメディアは使わない、1日限定10食です。この村ではあり得ないことづくめでした。95%の商売相手を切り捨てる戦略をとった僕、果たして、3ヶ月経った店はGoogleで五つ星と高い評価を得ています。日本食という武器があればこそこの商売が成り立ちました。それはラーメンを通じて世界が変わった瞬間でした。

ラーメン屋から見る世界は大きく変わりました。良いことも悪いこともありすぎてまだどう捉えたらいいものか、ぼんやりとしています。世界の変化をどう捉え、どうやって生きる術を得るか、価値があるとはどういう事なのか、そんな事を考える毎日が続いています。



ラーメン屋開業を手伝ってくれたリュウくん。
日本から食品サンプルと暖簾も届きました。
全てが手作り、いまだに試行錯誤です。

雑記 ごまめの歯ざり

最強寒波

一月末、最強寒波がいなべにもやってきた。屋外にある洗濯機への配水管は凍って洗濯ができず、洗面台の配水管も屋外で凍って朝は顔が洗えずでした。おかげで洗濯物が2日間4人分が溜まりに溜まって。しかも夜の防災無線からは「水道管破裂による漏水多発で配水池の水位が低下しており断水の恐れが。入浴や洗濯、食器洗いもなるべく控えて節水のご協力を！」とのことでした。こんな形での断水があるのかと初めての経験でしたが入浴後の風呂水はそのままトイレなんかに使おうと残してました。こうして考えてみると、普段は飲める水をじゃぶじゃぶ食器洗いにトイレにお風呂に使っていても恵まれた環境に暮らしていることを実感。家の下に川が流れているので水が止まってもなんとかなるかと思つてますが、こんな寒い中、川に水汲みに行くのも大変。そもそも普段がとんでもない量の水を使つてのだと気づき、バケツで川に汲みに行くことを思うと水道のありがたきこと。結局溜まった洗濯物はいなべ市内の断水の危険が先に解消された大安町のコインランドリーへ妻が持つてつてくれました。初めてのコインランドリーの容量のデカさに感動して「3日分全部1回で洗えたの！」とご機嫌で帰宅。数日して断水の危険も解消され寒さも落ち着き我が家に大きな被害はなく普段通りの生活に戻りました。が！育苗ハウスへ行くと散水用のポンプの铸件が破裂！しかも2個とも！初めての経験に最強寒波を重ね重ね痛感。次の最強寒波が来る時は風呂水溜めてポンプの水は抜く！今回の学びです。

(支援者 寺園 風)



手つなぎは開かれた関係の中で

あいち障害者センター 理事長

近藤 直子



2002年9月から2003年7月まで6回にわたり「コンビニハウス会報」に、「心に残る出会い」を連載してから実に20年ぶり。2月17日に職員さんに「発達と発達保障」についてお話したところ、大川さんから「どうしたら若い人に障害者運動に関心をもってもらえるか書いて」と依頼されました。私のように、障害の重い子どもは学校にも

保育所や幼稚園にも入れず、働く場もなかった「ないない尽くし」の1970年代初めから障害児者問題に係っている世代と、就学前に通う場も、18歳まで通える学校も、放課後や長期休暇に通う場も、そして働く場や、親元から離れて生活する場も制度としてできている世代とでは、運動に関する感覚が違うのは当たり前。育ってきた時代が違い、体験も学んできたことも障害のある人に対するイメージや感覚も違って当然です。

私の専門は「障害児の発達理解と発達保障」ですが、子どもであれ私たち大人であれ、人間は自分が「意味を感じたこと」に向けて主体性を発揮し、自分らしい自分を形成していきます。障害者運動に意味を感じる生活がなければ関心を持ちにくくて当たり前です。主体性を発揮する前提としてまず必要なのは「安心できる生活」が保障されることです。

こころが落ち着くから周りの世界に気持ち向き、意味を感じたことに向けて主体性を発揮するのです。安心のためには、もちろん食事や睡眠などの生命の安全の保障が不可欠ですが、それだけでなく「大好きな人に受け止められている」実感が必要となります。若い職員さんたちが安心して働き、障害のある仲間の思いを受け止めるためには、給与や労働条件はもとより、わからないことや困ったことがあったときに、安心して語り相談できる「受け止め合える」職場集団があることが求められます。

そのためにまずはケース会議の定例化を進めてください。一人で悩むのではなく、職場で学び考え合うことで見える世界が広がります。ケース記録を書く際には、仲間たちの「困った姿」だけでなく、好きなこと、興味関心、強み、ステキなところを書き出して

みましよう。仲間たちの姿を思い浮かべるこ
とが楽しくなってきたら、職員個人の持ち味
が活き、主体性が豊かに発揮されるようにな
ります。ケース会議を通して仲間理解が深ま
ると共に、職員も持ち味を発揮し発達するの
です。そうすると、もっと豊かな取り組みが
したいという願いが広がり、新たな学習への
意欲も強まります。

このような営みを通して、職員同士はもと
より仲間たちとも相談し学び合える「開かれ
た関係」が築かれていくと、もっともっと世
界を広げ、職場の他職種の人も、そして職
場を超えた人たちとも手をつなぎ、障害児者
も自分たちも楽しく豊かに暮らすための取
り組みに向けた一歩が力強く踏み出されて
いくのではないのでしょうか。みんなが発達の
可能性を豊かに秘めた存在なのですから。



「発達と発達保障」 研修の様子

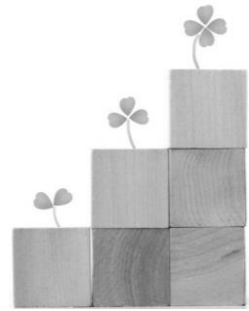


講師の近藤直子先生



人を育てる

【通所部編】



若い人が少なくなっている中で新たな職員採用が難しい状況が続いています。事業の拡大を計画していこうとすると現在の職員の育成が大きな課題です。

社会福祉法人になったばかりの数年間には個性の強いベテラン職員と多数の新人職員により構成されていきました。新人を丁寧育てる余裕がないまま彼らは先輩の背中を見て、たくましく育ってくれました。10年以上が過ぎて子育てをしながら働き続けたり、

職場では教える立場になったり日々奮闘している中堅職員に「人を育てる」難しさや自身の目標を自由に書いてもらいました。

(コンビニの会 理事 宮川 優子)

【通所部 V O L O 職員 有満 義昭】

新人職員や障害者への支援が初めての人に対し、支援の仕方を言葉で伝え、理解してもらうことは大変難しいことだと思っています。言葉以外の方法で実際にやっている姿を見てもらい覚えてもらう事も沢山ありますが、大切な事はやはり言葉での意思疎通をしっかりと積み重ねていくことだと思います。利用者さんのどういう所を見てどう感じた結果、どんな行動になったのか、思考から行動に至るまでの順序を確認しながらアド

バイスをしたり、支援方法について一緒に考えたりと利用者さんへの支援となる働き方の土台を共に作っていく作業でもあると思います。

一方で、言葉で自身の考えや気持ちをうまく伝えられない人もいますので「わかりません」や「考えたことはありませんでした」といったような閉じた会話で話が終わってしまわないように、答えやすい質問の仕方を工夫し、教える側のスキルを向上させていくことも同時に大切だと感じています。振り返れば、私も障害者支援についての考え方や利用者さんとの向き合い方などを考える時間やヒントをたくさんエゼル福祉会から与えてもらいました。その感謝を次の職員へ伝えていけるように励んでいきたいと思っています。

【通所部 VOLLO 職員 大西 哲平】

私がエゼル福祉会に入職して7年ほど経ち、いつの間にか教える立場になり、今までの経験や知識が試されていると感じています。私自身がOJTやプリセプター制度のような指導、教育をされた経験が乏しいこともあり、実践現場での指導に余裕がなく、説明が早口で遠回しになってしまっているのはと日々反省しています。

中でも難しいのは間違っていることを指摘するときです。実践の中で誤った方法での支援に気づいた際、最も効果的なのはその場で指摘して改善してもらうことだと考えます。しかし、気づいても私がほかの方の支援に入っていると、後から問題点を説明するケースが増えてしまいます。指導する側は話

すことを整理できるのでメリットがありますが、指導される側からしたらどの場面で行っていたか忘れてしまいイメージしづらいことが多いのではないかと思います。

また、身体介助だけでなく、相談援助のようにもコミュニケーション面での指導に関しても指導する側とされる側の職員が一緒に同じ場面を共有することで、この方はこう伝えたいのではないかとより具体的なアドバイスがしやすいように思います。なかまとの個々の関りが重要視されている実践現場の中、職員の指導、教育においてもそうした丁寧さが求められているように感じています。



【通所部 WILLL 職員 佐藤 幸治】

私は、通所部ウィルで15年間勤務しています。日々の実践の中で、仲間の支援や通所の活動作りで悩んでしまうことがあります。さらに職員の人材育成についてもいろいろと悩みながら取り組んでいます。

新人の時の人材育成のことを振り返ってみると、仲間への支援などは、先輩職員からしっかりと教えられたことがなく、先輩職員の動きを見て覚えることや自分で学んで覚えていくことがほとんどでした。今考ええると職員の数が少なく、教えることができるベテラン職員や中堅職員も少なかったからでしょう。それでも先輩職員や上司に仲間との関わり方や活動作りなどの悩みは聞いてもらいました。

時が経つにつれて、教える立場の職員が増えてきました。職員の人数が増えて職員集団として確立できたことはよかったと思いません。業務の引き継ぎなどは問題なくできるようになりましたが、仲間との実践でのことで「仲間との関わり方や支援をどのように伝えていくのか?」「仲間との関わりで悩んでいることをちゃんと聞いているのか?」など深いところで共有できているのでしょうか。また、エゼルの理念・ウィルの方針に沿った実践を説明し、職員の先輩としての責任を果たしていききたいと思えます。

「後輩職員への伝え方で、ちゃんと自分が伝えたかったことが伝わっているかな?」という指導方法で悩んでいた時期がありました。その中で、今までの自分の実践を振り返

り、「仲間にとってどのような職員が安心できるのだろうか?」、「この人に会いたいと思える職員ってどのような職員なのか?」と考えました。この職員像が、私が後輩職員に求めていることで、そのように成長してほしいと願っていることだと気付きました。

仲間と安心感を与えて、この人に会いたいと思える職員には、仲間と関わる力や仲間の変化に気付く力があり、その力は、仲間と関わっていく中で磨かれていきます。職員が継続して働くことで、仲間と関わる時間が増えて、その力が磨かれ仲間にとって安心できる存在やまた会いたいと思える存在になります。日々の実践での悩みを聞くことや一緒に考えることが人材育成で大切なことだと思います。

ウィルの理念で「共に生き、共に学び、共に育みあえる場にします」という言葉があります。この理念は、仲間と一緒に成長することや学んでいくことという意味だけでなく、職員同士で仲間との実践での悩みなどを共有して一緒に成長することや学んでいくことの意味もあると思います。仲間との実践の悩みを一人で抱え込まず、共有して一緒に考えてお互いに成長できるような関係づくりをしていきたい。また、職員やパート職員が長く働き仲間との関係を深めていき、仲間が安心して通える場所・この人と会いたいと思える職員を増やしていくことを目標にして人材育成に取り組んでいきたいと思えます。

地域のみなさんと

ともに

渡辺クリニック

院長 渡辺 康介



エゼル福祉会の嘱託医をさせて頂いて約

4年が経過しました。遅くなりましたが自己

紹介をしたいと思えます。現在クリニックは

内科・小児科・循環器内科の標榜をしていま

すが、いわゆる一般医・プライマリケア医と

しての役割を担うクリニックを目標に医療

に貢献したいと思っています。

平成10年に卒業しましたが当時は一般

医・プライマリケア医といった概念は日本で

はあまり認められておらず、卒業後一般内科

として勤務、その後専門科を決めてその道で

研鑽を積んでいく経歴が一般的でした。その

為どのように自分のキャリアを進めればよ

いか分からないまま一般内科勤務を経て循

環器内科を専攻していました。仕事自体は大

変やりがいのある仕事でしたが、最先端の医

療を提供するためには循環器の中でも更に

心不全専門、カテーテル治療の専門、不整脈

治療の専門といった分野に細分化されてい

くことになっていました。



その為一念発起して名古屋市立大学循環

器内科医局を退職、名古屋大学総合診療部へ

転職しました。多数の疾患を広く診療し、必

要な時点で適切な専門医を紹介するという

こととなりますが、専門性がない専門医?と

言って名古屋大学内でも総合診療部を評価



嘱託医の渡辺康介先生

しないスタッフも多数みえる印象でした。特定の疾患のみの場合は専門科のみの診療で対応できる場合もあります、また多種の問題がある場合や確定診断がされてない場合も多く専門医が診療すればよいとの考えもありました。しかし専門医も自分の専門分野以外については判断できないことも多く実際の医療現場では誰かが担当医となり責任をもつ役割が必要なのが少しずつ理解されてきているようでした。総合診療部では様々な疾患の診断と治療、また小児科での勤務など行いました。仕事はハードでしたが現在の診療の礎になっていると思っています。エゼル福祉会での仕事を始めて気づいた

点ですが、これまで病院での関わりではその時点で治癒可能な疾患等の解決が目的で、固定した障害についての関わりはそれ程無かったこと気づかされました。エゼルでの支援は日常生活での移動、食事、排泄などの多数の問題に対応する必要があり大変な仕事量で職員の皆さんの姿勢をみて頭が下がります。また利用者の方がより自立した生活が出来るように各種制度が作られ、利用されているのを見て驚いたと同時に大変素敵だなと思いました。微力ですがお役に立てるよう頑張りたいと思っています。

名古屋市西区歌里町にあります

『渡辺クリニック』です。

地域に密着し、ご家族皆さままで安心して通えるかかりつけ医院として

皆さまのお役に立てるよう努力してまいります。

内科・小児科全般の他、各種予防接種や検診なども随時

受け付けております。



《活動状況》

1月

- 9日 祝日開所 (WILL・VOLO)
- 12日 虐待防止研修 (生活支援部)
- 16.23日 WILL 職員会議
- 19日 生活支援部主任会議
- 25日 連絡調整会議
- 26日 会報発送
- 26日 通所親の会
- 27日 通所主任会議
- 25日 グループホーム世話人研修
(伊藤・高橋)
- 27日 医療基礎知識研修 (高橋)
- 30日 個別支援会議 (生活支援・通所)

2月

- 1日 会報会議
- 2日 企業展 (榊原)
- 8日 連絡調整会議
- 8日 名古屋生活支援事業所連絡会
(渥美)
- 8日 名古屋市懇談会 (榊原)
- 9日 生活支援部主任会議
- 9日 サービス等利用計画作成研修
(岩下)
- 16日 暮らしの場交流会 (木村)
- 17日 エゼル福祉会職員研修
「発達保障研修」近藤直子先生
- 19日 ウィンクあいち求人フェア
(榊原)
- 23日 理事会
- 23日 祝日開所 (WILL・VOLO)
- 28日 個別支援会議 (生活支援・通所)

会報購読者のみなさまへお願い

いつもコンビニの会・エゼル福祉会をご支援いただき誠にありがとうございます。
2ヶ月に1度会報をみなさまへお届けしておりますが、お手元に会報が届かず、
こちらに郵便物が戻ってきてしまう事があり、購読者が年々減少しています。
届かない理由として、主に以下の①②があります。

①転居により配達できない

②お住まいは変わっていないが、地名変更により旧住所での配達ができない

今回お届けしました封筒の宛名住所が現住所と異なる方は下記まで
ご連絡いただけますようよろしくお願いいたします。

☎:052-502-7731 FAX:052-505-6082 メール:convini@ezeru.or.jp

コンビニの会 事務局

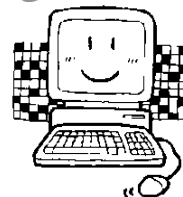


事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

1月～2月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

富永典子 山上小枝子

スズキヨウコ

物品寄付を頂いた方々

(WILL)

中谷暢宏 鈴木丈登

伊納尚男 丹羽恵子

宮川優子 安積奈菜子

桐澤 潮 栗本博美

福井 悟

(VOLO)

高嶋一臣 久保昂太郎

安永麻里 安積奈菜子

鈴木丈登 坪内美紀

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

大森 信 石原正寅 辻本道子

石原まち 鈴木千春 寺西 剛

土田京加 東原光江 田村淳仁

清水柚衣 川口侑里 榊原さち

桐澤 潮 鈴木悠太 小林愛恵

篠田倫子 林 京香 西川昇吾

後藤 楓 渡部陽妃 松井暖実

山本 武 西 亮憲 梶田里奈

酒井まみ子 玉那覇詠洸

山下茉綺聖 平林千聖都

長谷川美緒 中川真理乃

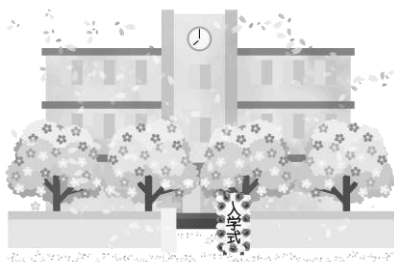
榊原つぐみ

★ 会報発送ボランティア

半田素子 吉田嘉子

丹羽正子 佐藤美紀子

藤田ますえ



祝成人



先日、令和4年度に20歳になられたVOLO2名、WILL1名の「はたちを祝う会」を行いました。

当初は、成人の日の1月9日に会を予定していましたが、年末から勢いを増していたコロナ第8波の影響で時期を見合わせる事となり、遅れて3月の開催となりました。(通所部 WILL 大森直子)



仲間にご祈禱してもらいました



楽しいはたちを祝う会でした♪

【銀行口座】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108
特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <https://ezeru.or.jp/>

E-mail convini@ezeru.or.jp

